Campo Prova 2012「Gusto Italia」（トキタ種苗）

▶5月21日
（埼玉県加須市）

日本に合わせて品種改良したイタリア野菜の普及と、おいしい食べ方の提案

トキタ種苗は5月21日、埼玉県加須市にある同社大利根研究農場特設圃場で「Gusto Italia」（イタリアを食べよう）という催しを開いた。イタリアに子会社を持つ同社はイタリア野菜の日本への普及に尽力している。イベントでは、同社が日本の気候風土に合わせて品種改良をしたイタリア野菜の数々をピーアールするとともに、この日発表となった日本初のイタリア野菜「スティッキオ」の試食会も行なわれた。スティッキオは見た目がセロリに似ているものの、軟らかく甘みもあるユニークな野菜である。その特長を生かしてイタリア料理のシェフがバーニャカウダやサラダ、グラタン、ピザなどを振る舞った。

会場にはイタリア野菜の栽培に力を入れている山形県河北町や地中海原産のルーコラ・セルバーティカを手がけている埼玉県坂戸市、「親の代にはやらなかった新しいことに挑戦したい」という長野県佐久市の農家の跡継ぎたちで組織した「ベジタ兄やんズ」をはじめ、イタリア野菜を栽培する生産者たちのブースが並び、レストラン関係者らとの商談も実施された。イタリア野菜の魅力をより多くの人に知ってもらうためには、売るだけではなく、おいしい食べ方も一緒に提案したいとするイベントのコンセプトを表現したものだった。

（田中真知）



日本初登場のスティッキオ。セロリに似た外観ながら軟らかくて甘い。

FOOMA JAPAN（2012 国際食品工業展）（日本食品機械工業会）

▶6月5日～8日
（東京都江東区）

カルビー・伊藤社長が講演、「海外売上比率を30％に」

食品機械の展示会である「FOOMA JAPAN」（2012国際食品工業展）が6月5日～8日の4日間、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれた。出展企業数は666社を数え、期間中、業界関係者ら10万人弱が訪れた。最終日となる8日にはFOOMAビジネスフォーラムとしてカルビーの代表取締役社長兼COOである伊藤秀二氏が「掘りだそう、自然の力。～カルビーの今とこれから～」と題した講演を行なった。以下、その内容を抜粋する。

日本の菓子業界は現在、3兆2570億円の市場規模がある（11年）。同社が主に絡むスナック菓子は約4000億円を占め、その半分を同社と子会社のジャパンフリトレーで稼ぎ出している。カルビーではこれまで10年ごとに新商品を開発することを目標にしてきた。少し前のヒットには「じゃがりこ」があり、売上は350億円に達する。ただ、もはやそれでは遅いため、30～50億円レベルのものを早く出すことに方針を転換した。継続的成長と高収益体制の実現に向けて組織を強化するなか、米国の食品大手・ペプシコと提携し、本格的な世界進出を視野に入れる。今は4％の海外売上比率を30％にすることを当面の課題にしている。

（永井佳史）



カルビーの今とこれからを同社伊藤社長が語った。